



令和6年12月15日
第888号

一般財団法人日本遺族会
〒100-0001 東京都千代田区千代田
千代田区千代田五丁目九番地
電話 03-3261-5521
00160-6-25389
電報掛 盛川発行
電報集 毎月1回15日発行
定価 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊救済の道を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

常務理事会 広報・育成戦略を承認 終戦80周年平和の語り部

本会はブロック会議等の意見を踏まえ、終戦80周年平和の語り部事業を確実に実行するための広報・育成戦略を11月7日の常務理事会に提案、了承された。終戦80周年を好機とすべく自治体・報道双方へ事業の周知、理解を促す機会として追悼式を活用。より多くの活動者を育成する方途として、既存の慰霊事業を体験型とする活用方法が提案された。

本会は、9月の常務理事会で承認された終戦80周年記念語り部事業計画と組織強化策を、同月から10月にかけて、全国5つの地域で行われるブロック会議および、青年部・女性部ブロック別研修会で説明、周知を図った。その際、多くの支部が



平和の語り部事業の重要性について話す水落敏栄本会会長
=11月7日、常務理事会で

ら寄せられた自治体による温度差により、実施機会を増やせない、活動者の育成が難しいという意見が寄せられ、11月の常務理事会では、自治体へ事業の周知、理解を促すこと、女性部ブロック別研修会、自治体の追悼式における語り部を以下の通り提案

常任理事会を開催

11月7日、日本遺族政治連盟は常任理事会を開催し、衆議院総選挙を受けた今後の対応を確認した。総選挙の結果、自民党は公示前の247議席から199議席(56議席減)と大幅に議席を減らし、本連盟においても拡大の協力議員が落選した。他方、伊東良孝理事長(北海道 特命担当大臣)、中野英幸青年部長(埼玉)、若原 渉青年部長(福岡)が初当選を果たした。

結果を受け、特別慰霊金の増額を含む来年度の予算案が実現できなかった場合は、遺族会組織の存続を揺るがす事態となることが示され、今後一層丁寧な陳情と協力議員を増やすべく、遺族会議員協議会への入会促進、来夏参院選への協力が確認された。水落敏栄理事長は、自民党改選の総選挙に強い危機感を示した上で、終戦80周年の節目に「国は戦没者を忘れない」とする特中の継続・増額を要望する一方、戦争の記憶を

列者を要することも重要と説明した。また、組織における既存行事を活用した体験型を推奨し、実例として沖繩平和祈願慰霊大行進、戦跡慰霊巡拝、慰霊碑清掃等における体験を通した語り部の展開が示された(慰霊碑の活用は4面に別掲)。

また、地域に沿った戦争の歴史、体験者の記憶を伝承できる遺族会の語り部をPRする事業として、総合学習の時間の活用を想定した学生が体験者に戦争体験を聞く全国共通企画を本部が先行実施することも承認された。加えて、活動者を増やすための研修「自分史を作る座談会」をメイン企画として実施する12月の女性部研修会の準備状況を報告した。

節目の年に、遺族会が語り部事業を通していかにか社会貢献できるか、本部支部一丸となって取り組むことが確認された。

11月11日、第2次石破新内閣が発足した。石破茂総理は、国民の納得と共感を得られる政治を実現し、我が国や国民、地方、若者、女性の機会を守り、すべての人に安心安全をたらす社会を実現すると表明した。

本会関係者では、伊東良孝北海道連合遺族会理事長が任命された。委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

本会関係者では、伊東良孝北海道連合遺族会理事長が任命された。委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

この他、衆院国会対策委員長に坂本哲志氏(戦没者の甥)が任命された。

第69回 奉納菊花展

靖国神社において第69回奉納菊花展が10月16日から11月5日にかけて開催され、境内に設けられた特設帳舎に美しい菊花が大輪が奉納展示された。

11月21日には、靖国会館において奉納菊花展の表彰式が行われ、本会からは水落敏栄会長の名代

新宅敏次郎氏、山口県遺族連盟会長、

令和6年10月11日、逝去された。83歳。通夜・葬儀は山口市のベルゴジティールホール小郡で行われ、喪主は妻恵美子氏。

山田 良氏、日本遺族会評議員、佐賀県遺族会会長。

令和6年11月14日、逝去された。85歳。通夜・葬儀は佐賀市JAFプラザホールなべしで行われ、喪主は妻恵美子氏。

山田 良氏、日本遺族会評議員、佐賀県遺族会会長。

謹 哀悼

山田 良氏、日本遺族会評議員、佐賀県遺族会会長。

令和6年11月14日、逝去された。85歳。通夜・葬儀は佐賀市JAFプラザホールなべしで行われ、喪主は妻恵美子氏。

山田 良氏、日本遺族会評議員、佐賀県遺族会会長。

令和6年11月14日、逝去された。85歳。通夜・葬儀は佐賀市JAFプラザホールなべしで行われ、喪主は妻恵美子氏。

山田 良氏、日本遺族会評議員、佐賀県遺族会会長。

靖国神社
初詣・諸祈願参拜
神恩感謝・国家安泰・家内安全
厄除・社業繁栄など 受付中
行事等の詳細はホームページをご覧ください。
社務所までお問い合わせください。
靖国神社社務所
電話 03(326)8326(代)
公式ホームページ
https://www.yasukuni.or.jp/

令和七年
新年のお参りは
靖国神社へ
初詣

友好親善 慰霊事業

亡き父の足跡を辿る旅 インド、フィリピンを訪問

戦没者遺児による慰霊友好親善事業では、インド、フィリピン地域を相次いで実施した。全国から戦没者遺児、青年部等の付添者10人を含め総勢46人が参加し、永年の念願であった亡き父の眠る地で慰霊祭を執り行い、父と語り慰霊の誠を尽くすとともに、各地においては孤児院や小学校等を訪問し現地関係者と友好親善を図った。

インドは10月30日から11月5日、フィリピンは11月8日から15日の期間で実施し、各訪問団員は期間初日に東京・九段会館テラスに集合して結団式を行い、靖国神社で慰霊巡拝の奉告と旅の安全を祈願した後、父が眠る縁の地へと出発した。

11月1日、インドの首都ニューデリーに到着し、翌日、前年度参加者であった付添者や青年部が同行する場合は参加を認め、参加者申請書を事前に取り寄せ、記入項目に不明な点、戦没者の部隊等は各遺族会に相談し、記入した上で提出願いたい。



インパール方面に向かい父に語りかける団員
=11月2日、ピジマで



インド・ミャンマー全戦没者追悼式で追悼の辞を述べる水落会長=11月2日、コヒマで



亡き父を偲び慰霊祭で追悼文を読み上げる団員
=11月12日、サマル島カカルピカで

皆で大きな声で「お父さん」と呼びかけた。午後、コヒマ・ピリスメモリアルパークに於いて「インド・ミャンマー全戦没者追悼式」を挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を込めて追悼の辞を述べた。

A班はマニラ北方のアクレ、市内のリースール公園、東方山地のレイバン、ボンボン、ワワ、マニラ南方のカルバン収容所跡で、B班はルソン島中部西方のクラーク、ボンポレオ、西海岸のサンフェルナンド、ルソン島北東部のキャンガンで、C班はバナナオ島の北東海岸やミンダナオ島のタモガン、ダリアオ海岸で、D班はセブ島のセブ観音やリロアン海浜、レイテ島のオルモック湾口、サマル島のカルピカでそれぞれ慰霊祭を行い、亡き父に積

日本遺族会が厚生労働省から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、令和6年度の参加者を募集している。

友好親善 遺児の参加者募集 YouTube動画を配信

令和7年度は洋上慰霊とフィリピン地域のみを実施する予定にしている。付添者で戦没者の孫、ひ孫、甥、姪は国より3分の1の補助が受けられる。青年部育成の一環として、一人でも多くの遺児に、青年部と共に参加を希望している洋上慰霊の実施が実現した場合、募集要項は次の通り。

- ▼時期及び地域 実施計画概要参照。
- ▼参加費 10万円。東京等の集会場所まで及び解散場所からの交通機関は自身の手配となる。また、移動に係る国内交通費及び帰国時の宿泊代、渡航手続き手数料等費用は、個人負担となる。
- ▼参加資格 戦没者の遺児（周辺公海上を含む実施地域で父等をくし活用いただきたい。）
- ▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。実施地域や実施時期等は、相手国や交通機関等の事情で変更、延期、中止となる場合がある。参加者の高齢化を考慮し、看護師が同行する。
- ▼YouTubeを開設 参加者の増加を促進し、事業の意義を広く一般に周知するため、YouTubeを開設し動画を配信している。是非活用いただきたい。

実施計画概要

実施地域	実施時期	募集人員	申込締切
フィリピン(2次)	令和7年3月11日~3月18日	120人	1月10日



YouTube動画のQRコード

令和7年度 大型船舶で父の慰霊へ 洋上慰霊参加者募集

本会が政府から補助を受けて実施している「戦没者遺児による慰霊友好親善事業」では、終戦80年及び事業実施35周年を迎える令和7年度に計画している洋上慰霊の参加者を募集している。

募集要項は次の通り。

- ▼時期及び地域 令和7年6月1日(日)~11日(水) 10泊11日
- ▼募集人員 約300人(付添者含む)
- ▼参加費及び協力金 10万円。但し、過去の洋上慰霊参加者には協力金を別途いただく。
- ▼参加資格 父等を海域で亡くされた戦没者の遺児で、前年度の本事業に参加していない者(但し、前年度参加者であっても付添者で青年部が行う場合は参加を認める。)なお、申込多数の場合は選考となる。
- ▼申込方法 在住する各都道府県遺族会事務局へ。参加者申請書を事前に取り寄せ、記入項目に不明な点、戦没者の部隊等は各遺族会に相談し、記入した上で提出願いたい。



小学校の生徒たちと大縄跳びをして親しく交流する団員=11月13日、ルソン島カバナツアンで

年の思いを語りかけると共に冥福を祈った。今回の訪問では、付添者として青年部世代が7人参加したが、そのうちの戦没者の孫の一人は、慰霊祭で追悼の辞を読み上げ「おじいちゃんが出征した後、おばあちゃんに充てた手紙が残っていた。戦争は過去の悲しい歴史ではなく、我が家にとっては永遠に、事実から争いはなくなりません。おじいちゃんを含め、ご先祖様のおかげで私は今生きています。生きていくとはどういう事か?本当の豊かさは、幸せとは何なのか?私は、この世からおいとますその瞬間まで、問い続け、発信して参りたいと思っ

日本遺族会への賛助金のお礼

本会の活動に賛同し、賛助金を寄せていただいた左記の方々に対し、心よりお礼申し上げます。

賛同名(敬称略)：カタナ名は銀行振込、漢字名は現金書留等

佐々木由美、狩野平、岩淵康良、土柳尚子、福岡金春、吉川才一、瀬戸

茂子、武田眞彩、カサイイチロウ、ハットリロウメ、ミシマトモコ、コガトシロウ、クニヒロナオ、タナケケイコ(以上、11月1日から11月末日まで)皆様からいただいた賛助金は、本会が実施している英霊顕彰戦没者遺骨収集事業等にさまざまな遺族会活動に利用させていただきます。

ました。自身が生きてきて行きまうと誓った。11月14日、ルソン島ワグナ州カラヤの(比島)戦没者の碑前で、在フィリピン日本国大使館より花田貴裕公使兼総領事、鈴木勇紀一等書記官参列のもと、全班が一堂に集まり全戦没者追悼式を厳粛に挙行し、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げた。

また、各班で現地の小学校等を訪問し、学用品等を寄贈、子供達や現地の方々とも友好を深め、所期の目的を果たした一行間まで、問い続け、発信して参りたいと思っ

